

長男を亡くして、もう十年になります。二人の孫を守ろうと決めたあの日から、夫は彼らの父親代わりになっ
てきました。我が子を失い、深い悲しみを抱えながらも皆で手を携え歩んだ日々は幸せで溢れておりました。真面目で優しい人でした。私達の1番の楽しみは、孫のサッカーの練習や試合を見に行く事で、その成長をいつも見守ってきました。



大分市猪野
米田 洋子様

私も「さんわ」で
建てました
森町店

鹿兒島で試合がある時も、夫は必ず車を走らせ、一緒に応援に行つたものです。孫たちの頑張る姿に目を細める様子が忘れられません。惜しめない愛情は家族だけでなく、周りの子ども達にも注がれました。分け隔てなく可愛がり、「パパ」「お父さん」と慕われておりました。病が分かつて、一切弱音を吐かず頑張つてくれた夫。きっと皆に心配をかけまいと考えていたのでしょう。



広々とした敷地



大分市松岡
宮本 勝之様
五輪先祖供養塔

今でも、主人が亡くなったと思えません。現実には遺骨はどうしよう？石鎚山参拝で10年以上も良く一緒に登る「さんわ」の渡辺さんは亡き主人も良く知っていました。長男の時に
お世話になりました。それ
で、「さんわ」さんに相談、墓地、お墓と一切お願いしました。墓地は森町の街中にあり交通の便も良く周囲も民家、アパートに隣接して寂しくありません。 出来上がっ

たのを見て、少し小さいですが、こじんまりしたいお墓ができたなど主人も喜んでくれているように思えました。先日、納骨もすませて、親族一同ホットしているところです。ありがとうございました。

森町 渡辺

念願の先祖供養が出来、自分の顔は良く分かりますが、心、魂、内面の方は簡単に写す物（鏡みたいなもの）が無いので、自分のことが良く分かりません。そんな、私達に仏教は内面を見る（内観）ことを教えてくれます。ことに真宗は阿弥陀様の光にてらされ、照育され、私自身が解るようになるという教えであると教わりました。教えが解るようになるのは、あるいは教えが感じられ、身に付くには聞いて、聞いて、聞きぬく聞法につきるとお聞きしています。なかなかですが、継続一貫来年も積極的に聞いてゆこうと思えます。

お釈迦さまの足あと

ブツダガヤ

さとり地

中道によつてさとりを開く
快樂と苦行との二つの
極端を離れる一

カピラヴァストウでの世俗的な快樂の生活を捨てて、一人出家の身となつたお釈迦さまは、まず当時名声の高かつた二人の仙人のもとを訪れます。しかしいづれの教えにも満足できず、ブツダガヤの地で、6年7年の間、激しい苦行をされたと伝えられます。その苦行がどのようなもの

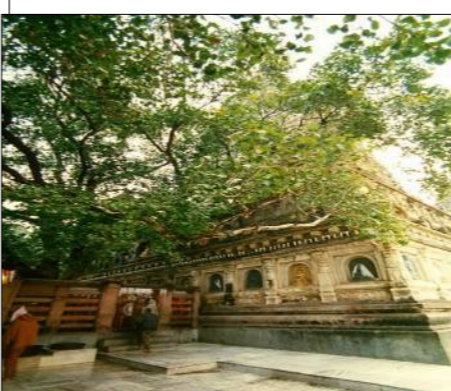


であつたかを、經典はくわしく説いています。たとえば胡麻の粉や草や牛糞までを食べるような厳しい節食の行。あるいは髭や髪を抜き取つたり、始終直立していたりうずくまっていたり、棘の床の上に臥すような苦行。あるいは森林にひそんで他人に接触しないような孤独の行など。しかしその苦行の結果、身がやせ衰えることはあつても、ついにさとりの智慧を得ることはありませんでした。

なるほどこれほどの苦行は常人には出来ぬことです。そのような苦行を積み重ね、なほ汚れが落とされ、聖者や仙人に近づくことができるであろうという考えが、おそらく世間では流布していたことでしょう。しかしお釈迦さまは、そのような苦行は、なんの役にも立たないものであるとして、これを放棄されました。後に菩提樹の下でさとりを開かれたとき、お釈迦さまは、わたくしは、もはや苦行から解放された。わたくしが、あのへためにならぬ



ブツダガヤの聖域には、高さ52mの大塔



東奥の金剛宝座と菩提樹。

苦行から解放されたのは、よいことだ。わたくしが安住し、心を落ち着けて、さとりを達成したのは、よいことだ。と、こう思われたと經典は伝えていきます。苦行をやめたお釈迦さまは、近くの村に住むスジャータという名の少女からミルクがゆを供養されたといいますがゆを供養されたといま元氣を得たお釈迦さまは、アシュヴァッタ（ピツパ）樹の下に坐つて瞑想をし、さとりを開かれたのでした。お釈迦さまがその下でさと（Bodhi Tree）を開かれたことから、



大塔内金剛仏

菩提樹(Bodhi-tree, Bo-tree)とも呼ばれます。日本ではお釈迦さまがさとりを開かれた(成道ともいいます)日を12月8日とし、「成道会しようどうえ」という行事をしてお祝いします。お釈迦様はさとりを開いて初めてブツダとられたのです。35才、のときのことです。「縁起えんぎ」の理法を觀じてさとりを開かれたと考えられています。



我々は顔は鏡で見るので、自分の顔は良く分かりますが、心、魂、内面の方は簡単に写す物（鏡みたいなもの）が無いので、自分のことが良く分かりません。そんな、私達に仏教は内面を見る（内観）ことを教えてくれます。ことに真宗は阿弥陀様の光にてらされ、照育され、私自身が解るようになるという教えであると教わりました。教えが解るようになるのは、あるいは教えが感じられ、身に付くには聞いて、聞いて、聞きぬく聞法につきるとお聞きしています。なかなかですが、継続一貫来年も積極的に聞いてゆこうと思えます。